

居合道 だより

第 191 号





はじめに

居合道部理事長 國方孝之

少し暑さを感じる頃となりましたが会員皆様には with コロナで稽古に励んでおられることと思います。

私儀、この度5月の理事会、総会にて福岡県剣道連盟居合道部理事長を拝命致しました。

大変な重責で身の引き締まる思いですが、福岡県剣道連盟居合道部の普及・発展に微力ではございますが尽力して参る所存でございます。

何卒、会員皆様のご協力とご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

さて、5月には3年ぶりとなる第118回全日本剣道演武大会が京都の武徳殿にてコロナ対策のもと開催され、福岡県からも多くの先生方が参加されました。

いつもの演武大会とは違い、無観客等で寂しさを感じた開催でしたがこの武徳殿で演武出来る喜びと武徳殿特有の緊張感もあるなか、私も演武させて

いただきました。

京都の武徳殿と言えば剣士にとっては聖地のような場所であり、武徳殿自体の建物の伝統の重み、風格等が特有の緊張感をかもし出しています。

武徳殿は武道の殿堂ですが、私たちが何時も稽古させて頂いている道場もしくは体育館、公民館等の公共施設も道場と置き換えあらためて考えてみたいと思います。

道場とは本来、仏道修行の場を指し、江戸時代には一般的に「稽古場」と呼ばれ明治以降に武道場となりその武を省略し道場と呼ぶようになりました。

今では道場と言えば剣術・弓術・柔術などの武術の稽古場という認識が一般的にはほとんどでしょう。

道場は自己を錬磨し修行に努める場であり、人が集まり色々な事をただ楽しむ場所ではありません。

「自分の心身を磨き、稽古(古(いにしえ)を稽(かんが)える)をする」という気持ちにて礼儀作法、行動、姿勢態度や心を整え自分が使うお道具等を丁寧に扱い、「礼」をきちんと行うことにより神仏を尊び、感謝の心、お互いを尊重する心をもって自己の心を整えていきます。

多くの剣士の方は体育館等の公共施設を稽古場として使用されている方がほとんどかと思えます。公共施設の場合においては神棚・国旗等が無いこともあり、この道場の本来の語源(仏教の悟りを開く場所)を意識することが薄れて来ているのも現状でしょう。

本年度は with コロナで講習会・県大会等の行事が開催される事と思いますので、改めて体育館等の公共施設であれ、道場の意義を忘れずお互いに稽古が出来ることに感謝し自己錬磨に励んでいきたいものです。

剣鍛心錬

福岡県居合道講習会 5月29日 於：福岡市立体育館





6月・7月の予定

6月11日	(公社)福岡県剣道連盟「総会」	福剣連	
7月10日	第55回福岡県居合道大会	福剣連	福岡武道館
7月22日	居合道段位審査会(6・7段)	全剣連	岡山市
7月23-24日	居合道地区講習会	全剣連	岡山市

編集後記

久しぶりに県主催の大規模な講習会が行われた。

みんなで揃ってする稽古は本当に楽しいと感じた。また毎回何かを掴んで帰りたいと必死に食いつくののだが、それがどうも気が前に出てしまって、つい力んでしまう。講師の先生に「力を抜く稽古しないとこれ以上「上」に上がれないよ。と言われてしまいました。これ実は随分前からの癖で四段受けるあたりからずーとうちの師匠にも言われているが、自分ではどう力が入ってるのかよくわからない。

段別に分かれて稽古して、その時の井手先生の解説にヒントがあった。

力を抜こうと思ったらその動作の前から抜かなければならない。「ん？つまり～振り上げた時に既に力入ってるのか？」

試しにやってみた「ほうほう、そーいうことか！」しかし癖はなかなか治りそうもないが、方向性さえ分かれば後は努力するだけ。

こういう気づきが毎回一つ有る。これが有ると本当に稽古したくなる。しかも無性に稽古したくなる。

肩に力入ってるよ・・・次の日肩が筋肉痛だったのはいうまでもない(苦笑)

表紙は横田くん。いつの間にか居合を初めて、既に12本抜いてる？なかなかやるなあ～

©公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第191号 令和4年6月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社FEW